

No. 1128

地震を体験して下さい

横浜市消防局の手で開発された地震を起すという珍しい車、名付けて「起震車」。市民が地震のときあわてないように、これで地震を体験して慣れておこうというねらいで製作されたもの。全国にこれ一台しかないという新兵器。2トン積みの中型トラックに耐震モデルハウスを取り付け、水平動、上下動で震度7までの振動を自由に出させるというユニークさ。

訓練には主婦や子供ら三百人が集まり、次々と「起震車」に乗り地震を体験、その反応は？

子供 「地震がそれほどこわいとは思わない。怖いというより、おもしろかった」

主婦 「ものすごい怖いわ、こんなに規則的なのかしら本当の地震は？今は訓練だと思って心の準備ができてるからいいけれど、突然だったらあわてちゃうわ。」

9月1日は「防災の日」あなたも地震を体験してみませんか。

夏を惜しむ

—山梨県石和—

温泉とぶどうで知られる山梨県石和。

甲府盆地のほぼ中央に位置するこの町は、15年前、ぶどう畑の中から、摂氏60度のお湯が1日500万ℓ湧き出し、急テンポで発展を遂げた。しかし、旧甲州街道沿いは今も古い面影を忍ばせている。身延山五ヶ寺のひとつ鶴飼山遠妙寺がまだ暑い日差しの下、静かなたたずまいを見せている。

この寺は、日蓮が鶴飼勘作の亡霊に法験を残した地に、弟子の日朗が草庵を建て、鶴飼の寺と称したのが、始まりと伝えられている。町の東方には小説と伝説の川、笛吹川がある。この川の名前、笛吹きは、その昔、権三郎という少年が荒れた川に吞まれた母を、笛を吹き吹き探し求めたという悲しい伝説から付けられたものである。今では人々のいこいの場として親しまれている。今年もぶどうの季節がやってきた。こもれ日のぶどう棚の下で食べる味は格別のものである。ぶどう狩の受け入れ準備も最後の仕上げ。

陽が山の端に消え、ようやく涼しくなった頃祭が始まるこの町の夏祭は今年で11回目。歴史は浅いが仲々の盛況ぶり。

今日ばかりは夜の更けるのも忘れて踊る。夏の夜空を色彩る花火が上がるといよいよ祭もクライマックス。

花火が終り、笛吹川に風が渡るとこの山あいの町石和は秋を迎える。